

令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（指導について）

指導者 Aグループ 竹原市立竹原西小学校 阿部 なつめ
指導学年 第1学年1組 20名

1 単元名及び教材名

たけにし小 1ねん1くみの「のりものカード」をつくろう！

「いろいろなふね」『のりものカード』をつくろう（東京書籍「新編 あたらしいこくご 一下」）

2 児童観

本学級の児童は、1学期の説明的な文章「どうやってみをまもるのかな」において、文章のまとまりごとに内容を読み取り、本文中の問いに沿って答えとなる文を抜き出す学習をしている。しかし、動物ごとに大事な言葉や文に選び出して読むことができる児童が63%であり、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す力を身に付けるまでには至っていない。

学習の振り返りを行った際には、「楽しかった」「すごい」などの感想に留まっている児童が多いことも課題として挙げられる。また、「広島県学びの基盤に関する調査」を行うと、「チーズをやぶる」と答えるなど語彙が少ない児童が複数いることが分かり、これらのことが「楽しかった」「すごい」だけの感想に留まっている原因の1つであると考えられる。拗音や促音が正しく書けない児童も複数おり、考えたことなどを書きまとめる際のつまずきとして挙げられる。

単元前の児童アンケートからは、ほとんどの児童が国語科の授業に進んで参加していることが分かった。しかし、文学的な文章では会話文があり、話のイメージがしやすく内容の把握がしやすいが、説明的な文章ではイメージがしにくいことから、文章を読むことが苦手だったり苦痛に感じたりする児童が2割程度いることも分かった。

これらのことから、乗り物という身近な題材を取り上げ、児童が興味関心をもって学習に臨むことができるような言語活動を設定し、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもつ力を身に付けさせていきたい。

3 指導観

指導に当たっては、単元の導入で、教材文や一般図書などの様々な乗り物について説明された文章を読み、選び出した文章の中の重要な語や文と、文章の内容と自分の既有的知識や経験とを結び付けてもった感想を「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」にまとめて図書室に掲示し、先生方（学校司書）、異学年に見てもらおうという言語活動を設定する。

教材文において、「考え聞かせ」を行い、写真から読み取ることができる情報を児童の経験をもとに引き出し、児童の言葉で解釈した文章の内容を表現する素地をつくる。また、4つの乗り物についての児童自身の既有的知識や経験を想起させるためのワークシートを毎時間書かせ、ノートに残し、教材文と自分の知識や経験と結び付けて感想をもちやすくする。振り返りを行う際は、観点と話型を示し、感想をもたせる。さらに、学校司書と連携し、乗り物に関する本や図鑑を教室に設置し、児童が主体的に読書を行い、学習に取り組むことができる環境を整える。

教材文の精査・解釈において、「やく目」と「つくり」に色分けをしてサイドラインを引き、「中」の部分の4種類の船についての説明は、それぞれ同じ段落構成になっていることを捉えさせる。また、「そのために」「だから」という接続語で結びながら「やく目」と「つくり」を整理することで、それぞれの船は「やく目」に合った「つくり」を有していることを理解できるようにする。

「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」の作成に当たっては、ワークシートにもまとめるための視点を示すことで、選んだ乗り物と既有的知識や経験を結び付けながら解釈し、理解を深められるようにする。また、自分の知識や経験と結び付けて感想をもつことは初めてなので、教師の作った「のりものカード」を示し、感想を表現するための視点を明確にする。さらに、同じ乗り物を選択したグループで読み合うなどして、「やく目」と「つくり」の関係を正しく整理できているか確認させていく。

最後に、図書室に感想ボックスを設置し、「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」の感想を友達や先生方（学校司書）、異学年からもらうことで、児童が学習の成果を実感できるようにするとともに説明的な文章に対する苦手意識を少しでも軽減していきたい。

4 指導と評価の計画（全 15 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ 評価方法 等
一	1	学習の見通しをもつ。 ・乗り物に関する「考え聞かせ」を行い、学習に対する興味・関心を高める。 ・知っている乗り物を共有する。				
	2	乗り物について調べ、「たけにし小1ねん1くみの『のりものカード』」にまとめて図書室に掲示し、先生方（学校司書）、異学年に見てもらおうという単元の流れを共有し、学習計画を立てる。 ・教師の範読を聞き、感想を交流する。				
二	3	教材文「いろいろなふね」を読み、文章の構成を捉える。 →①はじめ ②③④客船 ⑤⑥⑦フェリーボート ⑧⑨⑩漁船 ⑪⑫⑬消防艇 ⑭おわり ・全部で4つの船が紹介されていることを確認する。 ・4つの船の「やく目」と「つくり」を見付けていくことを確認する。	○			〔知識・技能①〕 ノート ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	4	「客船」の「やく目」と「つくり」を見つけ、ノートにまとめる。 ・児童自身の既知の知識や経験を想起させるためのワークシートを書かせ、全体で共有する。 ・②③④段落を音読する。 ・「やく目」を赤、「つくり」を青で色分けして、サイドラインを引く。 ・ノートにまとめる。 →きやくせんは、たくさんの人をはこぶやく目があります。そのために、きやくしつやしょくどうがあります。だから、人はきやくしつで休んだり、しょくどうでしょくじをしたりできます。 ・文章に対する自分の思いを書く。 →きやくしつがあってホテルみたいで、のってみたいとおもいました。				

	「フェリーボート」の「やく目」と「つくり」を見付け、ノートにまとめる。 ・児童自身の既有的知識や経験を想起させるためのワークシートを書かせ、全体で共有する。 ・⑤⑥⑦段落を音読する。 ・「やく目」を赤、「つくり」を青で色分けして、サイドラインを引く。 ・ノートにまとめる。 5 →フェリーボートは、たくさんの人とじどう車をいっしょにはこぶやく目があります。そのために、きやくしつや車をとめておくところがあります。だから、人は、車をふねに入れてから、きやくしつで休むことができます。 ・文章に対する自分の思いを書く。 →人だけじゃなくて、大きな車ものせられるからすごいとおもいました。				
	「漁船」の「やく目」と「つくり」を見付け、ノートにまとめる。 ・児童自身の既有的知識や経験を想起させるためのワークシートを書かせ、全体で共有する。 ・⑧⑨⑩段落を音読する。 ・「やく目」を赤、「つくり」を青で色分けして、サイドラインを引く。 ・ノートにまとめる。 6 →ぎょせんは、さかなをとるやく目があります。そのために、さかなのむれを見付けるきかいや、あみがあります。だから、見つけたさかなをあみでとることができます。 ・文章に対する自分の思いを書く。 →ふねの中に、きかいやあみがつんであって、びっくりしました。	○			〔知識・技能①〕 ノート ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	「消防艇」の「やく目」と「つくり」を見付け、ノートにまとめる。 ・児童自身の既有的知識や経験を想起させるためのワークシートを書かせ、全体で共有する。 ・⑪⑫⑬段落を音読する。 ・「やく目」を赤、「つくり」を青で色分けして、サイドラインを引く。 ・ノートにまとめる。 7 →しょうぼうていは、ふねの火じをけすやく目があります。そのために、ポンプやホースがあります。だから、火じがあると、水やくすりをかけて、火をけすことができます。 ・文章に対する自分の思いを書く。 →しょうぼうしゃみたいに火じがあると、火をけすことができてすごいとおもいました。				
	8 教材文「いろいろなふね」を読み、事柄の順序など情報と情報との関係について整理する。 ・「やく目」や「つくり」を見付けるときのポイントを確認する。 ・書き手が伝えたいことを確認する。				

	9	「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」で紹介したい乗り物を探す。 ・選んだ乗り物についての児童自身の既知の知識や経験を想起させるためのワークシートを書かせる。				
三	10	選んだ乗り物の写真や叙述から「やく目」と「つくり」を見付ける。 ・「やく目」を赤、「つくり」を青で色分けして、サイドラインを引く。 ・「だから」「そのために」といった接続語を用いて情報と情報との関係を捉える。		○		[思考・判断・表現①] のりものカード ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
	11 (本時)	見付けた「やく目」と「つくり」をもとに自分の体験と結び付けて、感想をもつ。 ・児童自身の既知の知識や経験を想起させるためのワークシートや身近な乗り物をもとにのりものカードにまとめる。		○		[思考・判断・表現②] のりものカード ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。
	12	「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」を完成させる。 ・同じ乗り物を選択したグループで読み合い、のりものカードを推敲する。			○	[主体的に学習に取り組む態度①] ・進んで、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもち、今までの学習を生かして、考えたことを「のりものカード」にまとめようとしている。
	13	「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」を紹介する。 ・感想を伝え合い、交流する。				
四	14	学校司書に「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」を紹介し、感想をもらう。				
五	15	学習を振り返る。 ・「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」を図書室に掲示する。 ・単元を通して、「できるようになったこと」「がんばったこと」「これからの学習で使えそうなこと」という観点を示し、振り返りをする。				

5 本時の学習

(1) 本時の目標

調べた乗り物の「やく目」と「つくり」をもとに、自分の体験と結び付けて、感想をもつことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1 前時の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。	○調べた乗り物の「やく目」と「つくり」や児童自身の既存の知識や経験を想起させるためのワークシートをもとに、さらにくわしいにするために自分の経験と結び付けて、感想をもつことを確認する。 ○完成した「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」を学校司書に紹介し、図書室に掲示することを確認し、今後の学習の見通しをもつ。	「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。 (のりものカード)
2 本時のめあてを確認する。	もっとくわしい「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」をつくろう。	
3 「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」のまとめ方を確認し、作成する。	○教師の作った「のりものカード」を見て、まとめるポイントを確認する。 ・バスの「やく目」と「つくり」が書いてあります。 ・のったことがある車のことが書いてあります。 ・しらべた車とくらべています。 ・おもったことやかんそうが書いてあります。 ○書きやすい部分から書いてよいことを伝える。 ◆事前に行ったアンケートをもとに、自分の経験や知識を想起させ、感想をもつことができるようにする。 ◆のりものカードに載せることにした理由を、教師が児童と会話をしながら引き出し、言語化できるようにする。 ◆調べたときに使った本のコピーを用意し、視覚的に自分の経験・知識と比較しやすいようにする。	
4 本時のまとめをする。	・やく目・つくり ・じぶんの しっている のりもの ・じぶんの しっている のりものと しらべた車を くらべる ・おもったこと・かんそう をかくと もっと くわしい カードになる。	
5 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○振り返りの観点(①がんばったこと・できるようになったこと②むずかしかったこと③つぎにかんばりたいこと)を示し、学習を振り返る。 ○次の時間で「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」を完成させることを確認する。	

(3) 板書計画

いろいろな
ふね

めあて

もつとくわしい「たけにし小 一ねんくみの『のりものカード』をつくろう。

バス

なまえ()

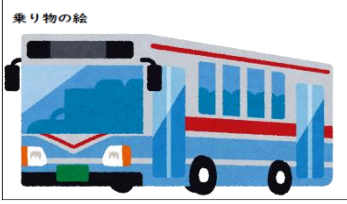
やく目・つくり

バスは、大せいのおきやくさんをのせて、はやく目があります。

そのために、つりかわやてすがついています。

だから、おきやくさんは、たつていてもあんぜんにすることができます。

乗り物の絵



じぶんの しつている のりもの

わたしがのつている車は、五人しかのれません。たつてのこともできません。

じぶんの しつている のりものと しらべた車をくらべる

わたしがのつている車とくらべて、バスはおきやくんがおおすぎて立つてのことがあつても、あんぜんにのれるようにつりかわやてすがついていることがわかりました。

おもったこと・かんそう

わたしは、バスにのる人ぜんいんがあんぜんにのれるようにくふうされていてすこいとおもいました。こんどバスにのつたときに、つりかわやてすがどこにあるか見てみようとおもいます。

ふりかえり

①がんばつたこと・できるようになったこと

②むずかしかったこと

③つぎにかんばりたいこと

まとめ

やく目

つくり

じぶんの しつている のりもの

・おうちの車

・しゃかい見学でのつたバス

・いろいろなふねでばんきようしたふね

じぶんの しつている のりものと しらべた車をくらべる

しつている車とくらべて

くがにています。

くがちがいます。

くにきづきました。

おもったこと・かんそう

くがすごいとおもいました。

くをしてみたいとおもいました。

6 指導の実際

(1) 指導上の工夫

ア 環境づくりの工夫

(ア) 並行読書

学校司書に、乗り物について詳しく書かれた低学年向きの本を選出してもらい、児童が乗り物に対する興味関心を高めたり、語彙を増やしたりすることができるように、教室に並べ、いつでも児童が手に取ることができるようにした。単元の最初に「たけにし小1年1組の『のりものカード』」を作ることを児童に伝え、どの乗り物を紹介するか考えられるようにした。



(イ) 学習の足跡の掲示

教材文「いろいろなふね」での学習の足跡を教室に掲示し、学習したことを視覚化した。本文を基にどのように「やく目」と「つくり」を見付け、ノートにまとめたのかが一目で分かるような掲示にした。「やく目」は赤、「つくり」は青と色分けしながら確かめることで、教材文の船は、同じ順序、同じ段落構成で説明されていることを捉えさせた。「だから」「そのために」といった接続語を用いて情報と情報との関係を捉えればよいことに気付かせるため、赤で書き、目立たせて掲示した。



イ 考え聞かせ

単元の最初に教師が様々な乗り物の本を児童に紹介し、写真から読み取ることができる情報を児童の経験をもとに引き出し、児童の言葉で解釈した文章の内容を表現する素地をつくるよう取り組んだ。「どんな仕事をする乗り物かな?」「どんなものがのっているかな?」など、単元を通して読み取っていく視点「やく目」と「つくり」について取り入れながら行った。

ウ 学校司書との連携

単元の最後で学校司書に「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」を紹介し、感想をもらう時間を設けた(写真1・2)また、よかったところに花丸シールをはってもらい、評価もしてもらった。(写真3)単元のゴールで学校司書に紹介するという相手意識をもって、意欲的に取り組む児童の姿が見られた。

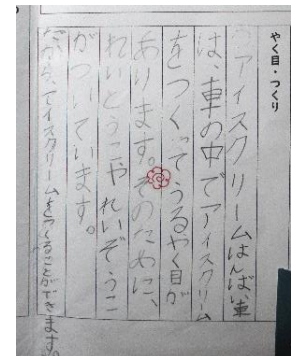


写真1・2 学校司書に紹介している様子

写真3 花丸シールでの評価

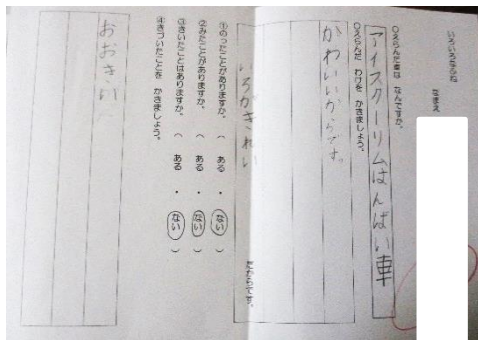
(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

つまずき

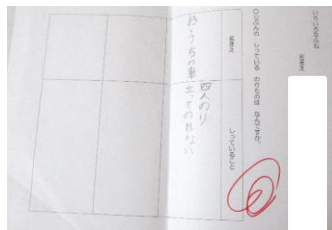
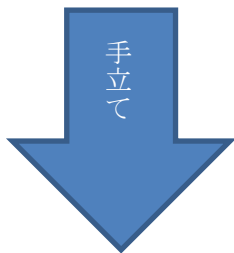
児童自身の知識や経験に個人差があった。船についてもほとんどの児童が見たり乗ったりしたことがないという実態があった。そのため、児童自身の知識や経験を想起させたり、知識や経験が豊富な児童を把握し、全体に共有したりする必要があった。

手立て

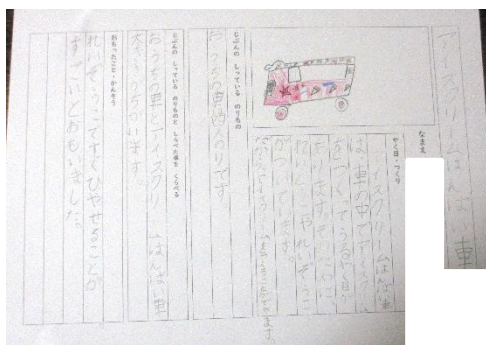
児童自身の既有的知識や経験を想起させるためのワークシートを活用した。ワークシートの内容は①乗ったことがあるか②見たことがあるか③聞いたことがあるか④知っていることや気付いたことの4項目である。また、乗り物カードにまとめるときにもワークシートを活用し、単元を通してつながりをもたせて行った。教材文「いろいろなふね」の学習の時から毎時間乗り物が変わるたびにワークシートを書かせ、全体で交流した。そうすることで、個人差が埋まり、知識や経験が少ない児童も意欲的に取り組むことができた。



①自分で選んだ乗り物についての既有的知識や経験を想起させるワークシートを活用した。すると、左のワークシートを書いた児童は乗ったことも見たことも聞いたこともないという児童の実態を把握することができた。また、乗り物カードを作成する前の感想は「大きい。」だけになっているため、手立てが必要だと考えた。



②左のワークシートは自分の知っている乗り物について知っていることを書かせた。そうすることで、既有的知識を想起させることができた。また、アイスクリン販売車についての知識や経験がある児童と交流させた。



③左のワークシートは完成した乗り物カードである。始めは「大きい。」としか感想をもてなかった児童が「うちの車とアイスクリンはんばい車をくらべると大きさがちがいます。れいぞうこですぐにひやせることがすごいとおもいました。」と自分の知っている乗り物と比べたり、感想を書いたりできるようになった。

7 評価の実際

「たけにし小 1ねん1くみの『のりものカード』」の記述内容から評価した。

- ① 選んだ乗り物の「やく目」と「つくり」を選び出している。
- ② ①の「やく目」と「つくり」と結び付く既有的知識や経験が書けている。
- ③ ②と結び付け、事前にかいたワークシートよりも理解を深めている。
- ④ ①②③を基に感想を書いている。

(1) 児童アの評価

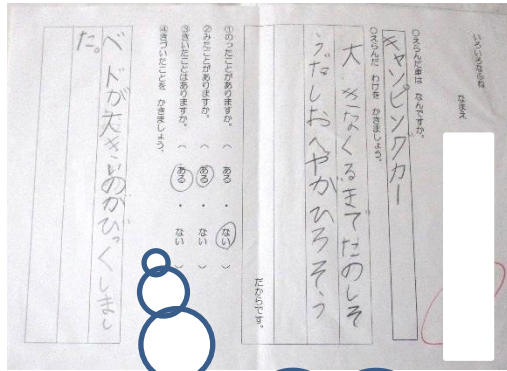


図1 児童アが事前書いたワークシート
(下は上のワークシートの感想を文書作成ソフトで打ち直したもの)

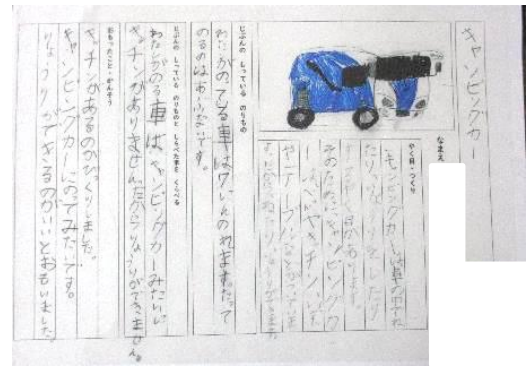


図2 児童アの乗り物カード
(下は上のワークシート文書作成ソフトで打ち直したもの)

児童アは調べた乗り物について①～③を踏まえて④を書くことができています(図2)。また、「キッチンがあることがびっくりしました。りょうりができることがいいとおもいました。キャンピングカーにのってみたいです。」と記述しており、事前にしたワークシート(図1)より文章に対する思いを述べる部分で「やく目」や「つくり」に着目して感想を表現しているため「十分満足できる」状況(A)と評価した。

(2) 児童イの評価

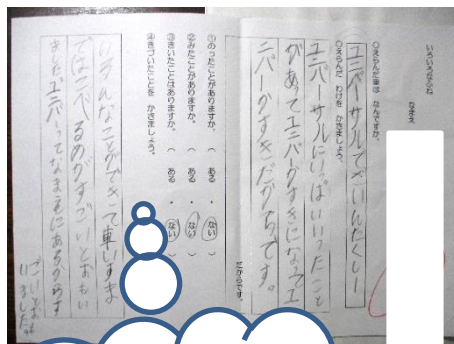


図3 児童イが事前書いたワークシート
(下は上のワークシートの感想を文書作成ソフトで打ち直したもの)

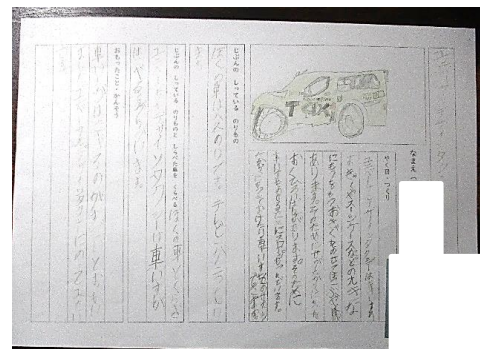


図4 児童イの乗り物カード
(下は上のワークシートを文書作成ソフトで打ち直したもの)

児童イは調べた乗り物について①～③を踏まえて④を書くことができている。しかし、感想そのものは変化がない。そのため、「おおむね満足できる」状況（B）とした。

（3）評価の総括

「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっているについての評価は「十分満足できる」状況（A）を1名、「おおむね満足できる」状況（B）を16名、「努力を要する」状況（C）を3名とした。

8 成果と課題

（1）成果

ア 文章の中の重要な語や文を考えて選び出す力の向上

はじめは「やく目」と「つくり」を教材文「いろいろなふね」から重要な語や文を考えて選び出すことに苦手意識のあった児童も同じように単元を通して繰り返し行っていくことで、自分自身で考えられるようになった。

イ 語彙力の向上

単元を通して学校司書と連携し、本が児童の身近にあることで、自然と本に手を伸ばすようになり、語彙力が向上してきた。そのことで、乗り物カードを作成するときに、自分の考えや思いを自分の言葉で表現できるようになった。

ウ 学習意欲の向上

教材文「いろいろなふね」の学習が楽しかったと答えた児童が100%で、説明的な文章に対する苦手意識が少し軽減された。学校司書や友達に評価をされたり、乗り物カードを自分で完成させた達成感を味わったりすることで、様々な乗り物への興味関心が向上した。

（2）課題

ア 調べる乗り物の選び方

自分の好きな乗り物を選択させると、その乗り物についての知識や経験がないものを選んでしまい、自分自身の既有的知識や経験とのつながりが深まらなかった。また、「やく目」と「つくり」と結び付けて書くことが難しかった。そのため、理解を深めることが十分にできなかった。

イ 児童実態への配慮

児童によっては書くことへの苦手意識があり、単元後の児童アンケートで、「乗り物カードを完成させることができうれしかったけど、書くことが大変だった。」と答える児童がいた。達成感よりも文字を書くことへの苦手意識を感じさせてしまった。

（3）今後に向けて

ア 調べる乗り物の選び方

自分自身の知識や経験がある乗り物の中から選択させるようにする。また、乗り物によっては「やく目」と「つくり」が見付けにくいものもあったので、難易度で本をグルーピングするような手立ても必要だと感じた。

イ 児童実態への配慮

文字を書くことが苦手な児童には個別の乗り物カードの様式を用意したり、学習意欲を向上させる単元づくりの工夫をしたりしていく必要がある。また、児童が自分の考えを話している様子を動画に残すなど、ICTを活用しながら、児童実態に合わせて取り組んでいく必要がある。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
しごととつくりがよくわかる！じどう車くらべ パトロールカー・はしご車・きゅうきゅう車	小賀野 実 (監修・写真)	金の星社
しごととつくりがよくわかる！じどう車くらべ バス・トラック・いどうはんばい車	小賀野 実 (監修・写真)	金の星社
しごととつくりがよくわかる！じどう車くらべ ごみしゅうしゅう車・じょせつ車・フォークリフト	小賀野 実 (監修・写真)	金の星社
しごととつくりがよくわかる！じどう車くらべ クレーン車・ゆあつショベル・コンクリートミキサー車	小賀野 実 (監修・写真)	金の星社
はたらくじどう車 しごととつくり① ブルドーザー・ショベルカー	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり② しょうぼう車・きゅうきゅう車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり③ パトカー・白バイ	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり④ バス・トラック	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑤ ごみしゅうしゅう車・ゆうびん車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑥ じょうよう車	小峰書店編集部	小峰書店